

## ✧ 上部消化管

### ◆ 胃部X線

空気を生成して胃を膨らませる発泡剤とバリウムを飲み、胃の形の変化や異常を調べます。食道・胃・十二指腸の炎症、潰瘍、がん、ポリープなどが発見できます。

### ◆ 胃内視鏡（オプション検査）

内視鏡を口または鼻から挿入し、食道・胃・十二指腸の内壁を直接観察します。細胞の一部を採取して調べる病理組織検査（生検）も必要に応じて行われます。

### 【主な所見】

胃・十二指腸潰瘍	胃酸の影響をうけて、胃十二指腸の壁が深くえぐれている状態です。進行すると、胃や腸の壁が破れたり大出血を起こすことがあります。胃潰瘍の場合はがんとの鑑別が大事なので、生検を行ったり、定期的な検査を受ける必要があります。潰瘍瘢痕は、潰瘍が治って傷跡が残っている状態です。ピロリ菌に由来するものが多いので、ピロリ菌検査（オプション検査）がおすすめです。
胃ポリープ	胃粘膜の一部がいぼのように盛り上がったものです。胃部判定が「心配なし」の場合は、放置して問題ありません。
胃粘膜下腫瘍	胃粘膜の下にできるいぼのようなものです。良性のものが多く、ほとんどの場合そのまま様子をみますが、なかには定期的な経過をみていく必要があるものもあります。
食道(裂孔)ヘルニア	腹腔内にあるべき胃の一部が、胸腔側へ脱出している状態をいいます。多くは加齢に伴う組織の緩みによるものや腹部肥満による腹圧の上昇により生じます。症状がなければ心配ありません。 胸やけ、つかえ感などがあれば消化器科を受診しましょう。

<p>逆流性食道炎</p>	<p>食道裂孔ヘルニアにより、胃液（胃酸）が逆流し食道粘膜がただれた状態をいいます。胸やけ、つかえ感などがあれば消化器科を受診しましょう。</p>
<p>胃がん</p>	<p>広がりや深さにより早期がんと進行がんに分類されます。ピロリ菌の持続感染が発生リスクを高めるといわれていますので、ピロリ除菌治療と定期的に胃の検査を受けることがおすすめです。</p>
<p>胃・十二指腸憩室</p>	<p>胃・十二指腸にえくぼ状のへこみがあります。すべての消化管で形成されることがありますが、十二指腸は最も出来やすいです。通常、症状が出ることはなく治療の必要はありませんが、炎症をおこすこともあります。</p>

#### ◆ H・ピロリ抗体検査（オプション検査）

ヘリコバクター・ピロリに対する抗体が血液中にどの程度含まれているか測定し、一定の基準を超える抗体が見つかった場合は、ヘリコバクター・ピロリに感染している可能性が高いと診断されます。ただし、抗原検査ではないため、ピロリ菌の除菌治療されたあとの診断には不適切です。胃炎、胃潰瘍の既往がある方におすすめです。ピロリ菌感染は胃がん発症と関連があるため、除菌治療は胃がん予防のための重要な対策と言えます。胃内視鏡検査と一緒に検査をするのがおすすめです。